

通学路合同点検の結果を踏まえて 町通学路安全対策会議を開催しました

☎ 学務課 総務係 ☎096(232)4918

5月1日から20日にかけて8日間にわたり、町内の各小・中学校区を対象に各小・中学校と関係機関による町通学路合同点検を行いました。児童・生徒が登校している状況を確認するため、午前7時から点検を開始し、8校区あわせて71カ所の点検を行いました。

6月27日には、通学路合同点検で確認した危険箇所の対策内容や進捗状況を関係者間で共有するため、第1回菊陽町通学路安全対策会議を開催しました。

今後は、危険箇所ごとに進捗状況を把握しながら、さらなる安全対策の強化に取り組み、第2回会議を令和8年2月に開催する予定です。町ホームページに各通学路点検の結果と対策を掲載していますのでご覧ください。



菊陽中学校の通学路点検で危険箇所の状況を確認



会議で開会のあいさつをする二殿教育長



新たな工業団地を整備します

☎ 商工振興課 企業立地支援係 ☎096(232)2165

この度、さらなる町の発展のため、新たな工業団地を整備することを決定しました。

6月19日には、事業区域内の地権者を対象に説明会を開催し、計画概要やスケジュールについて説明しました。

町では、半導体関連企業の集積、道路や下水道などの社会基盤が集中的に整備される状況を踏まえ、昨年9月から、セミコンテックパークに隣接するエリアにおいて、新たな工業団地の整備を検討してきました。

今回整備する工業団地は、県の「くまもとサイエンスパーク推進ビジョン」でも、企業集積の受け皿として位置付けられており、県内外からの期待が高く、地域経済の発展にとっても重要なステップと考えています。

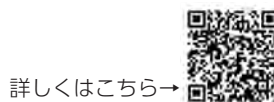
事業区域の規模は約24.2㌥。今後、地権者の皆さまのご理解とご協力を賜りながら、必要な許認可を取得したうえで、2031年度(令和13年度)

の分譲開始を目指します。

また、工業団地の整備と併せて、事業区域周辺の道路への影響を考慮した、道路計画の検討を始めており、今後も「成長しつづける町。」として、持続可能なまちづくりを進めていきます。



説明会であいさつする吉本町長



県議会 令和7年6月定例会

☎ 都市計画課 まちづくり推進室 ☎096(232)4927

「くまもとサイエンスパークにかかる知事の思いと今後の進め方」について一般質問

県議会6月定例会において、菊池郡選出の中村亮彦県議が、「くまもとサイエンスパークにかかる知事の思いと今後の進め方」について一般質問を行いました。

中村県議は、県が進めている「くまもとサイエンスパーク推進ビジョン」における「分散型サイエンスパーク」と、町が進めている「原水駅周辺区画整理事業」における「知の集積エリアでの大学や企業の研究・サテライト施設などの誘致」との連携について質問し、木村敬知事が「分散型サイエンスパークと大学・研究機関の誘致による人材育成は、まさにこのビジョンの中核である。地元市町ともしっかり連携する」と回答しました。

町は、交通渋滞対策などの重要課題に最優先で取り組みながら、半導体企業集積地にふさわしい先進的なまちづくりを県と連携して進めていきます。



質問概要 (中村県議)	回答概要 (木村知事)	回答を受けてのコメント (中村県議)
- 県が策定した「くまもとサイエンスパーク推進ビジョン」は、その基本理念である「分散型サイエンスパーク」が大きな特徴であり、「イノベーション創発エリア」を新たに整備するとされている。 - 町が進める工業団地や原水駅周辺の土地区画整理事業も、その拠点の1つとして位置づけられているが、他の市町村の拠点との機能面での連携、さらには道路ネットワークの整備を含めた拠点間のアクセス強化などが重要。 - また、ビジョンにおいて半導体関連産業の誘致のみならず、大学や研究機関の誘致も掲げているが、町においても、原水駅を中心とした市街地整備において、知の集積を目指し、大学や企業の研究・サテライト施設などの誘致を目指している。 - くまもとサイエンスパークにかかる知事の思いと、特に「分散型」と「大学・研究機関の誘致による人材育成」に向けて、今後どのように取り組んでいくのか。	- 本年3月に「くまもとサイエンスパーク推進ビジョン」を策定したところです。今後、このビジョンに沿って、県の持続的な発展という「地方創生の成功モデル」の実現を目指していきたいと考えています。 - ビジョンに掲げる取り組みの中でも、分散型サイエンスパークと大学・研究機関の誘致による人材育成は、まさにこのビジョンの中核をなすものです。 - 分散型サイエンスパークに向けては、企業間や大学・研究機関との産学連携、町などの周辺自治体が進める住環境の充実など、さまざまな機能の有機的なつながりを目指しています。 - 大学や研究機関の誘致については、半導体人材育成に特化した「世界に類を見ない」大学または学部の立地という高い目標をビジョンに掲げています。今後、国内外の大学や研究機関などとも意見交換しながら、誘致活動を進めて参ります。 - 地元市町ともしっかり連携し、具体的なサイエンスパークの姿が1日でも早くお示しできるよう、スピード感を持って取り組んで参ります。	- 町が計画しているJR新駅周辺の「知の集積エリア」にキャンパスを誘致することで、県内各地から通うことができる。 - また、学生がそのキャンパスで学び、すぐ近くにあるセミコンテックパーク内の半導体企業の協力により実習を受け、卒業後は実習の協力を受けたJASMやSONY、東京エレクトロンなどの企業に就職するといった、まさに「半導体人材のエコシステム」の仕組みを構築することができると思う。それこそが世界に類を見ない大学の設置と言えるのではないかと。 - 県内では、高校卒業後、多くの子どもたちが県外に流出していると聞く。その歯止めにもなる。県内地元に住み続けながら学び就職ができることになり、ひいてはTSMCの進出効果の県全体への波及にもつながると思う。 - この「くまもとサイエンスパーク推進ビジョン」をとおして、TSMCの立地によるプラスの効果を県内全域に波及させることで、この取り組みを「地方創生の成功モデル」となるよう積極的に推進していただきたい。